

変数 X が、平均値 m 、分散 σ^2 の正規分布 (m, σ^2) :

$$f(x) = \frac{1}{\sqrt{2\pi}\sigma} e^{-\frac{(x-m)^2}{2\sigma^2}}$$

に従うとき、変数の変換 $\frac{X-m}{\sigma} = U$ によって、 U は、標準正規分布

$N(0, 1)$:

$$\phi(u) = \frac{1}{\sqrt{2\pi}} e^{-\frac{u^2}{2}} \quad (\text{問9参照})$$

に従うことは、すぐにわかります。変数をこのように、変換すれば、どんな正規分布も、標準正規分布 $N(0, 1)$ に変えることができますから、正規分布に関する確率は、標準正規分布について計算しておけばよいことになります。このようなわけで、

$$P(0 \leq U \leq t) = P(t) = \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \int_0^t e^{-\frac{u^2}{2}} du$$

における t と、それに対応する確率 $P(t)$ の値を表にしたものが、いわゆる正規分布表といわれているものです。

ところで、この確率の値を求めるための右辺の定積分は、素直に計算できないので、正規分布表の作成は、この定積分の値を、いかにして計算するかにかかってきます。

さて、 e^x は、次のように展開されます。

$$e^x = 1 + \frac{x}{1!} + \frac{x^2}{2!} + \frac{x^3}{3!} + \dots$$

この x に、 $-\frac{u^2}{2}$ を代入して

$$e^{-\frac{u^2}{2}} = 1 - \frac{u^2}{1!2} + \frac{u^4}{2!2^2} - \frac{u^6}{3!2^3} + \dots$$

$$\text{よって、} P(t) = \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \int_0^t e^{-\frac{u^2}{2}} du$$

$$= \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \int_0^t \left\{ 1 - \frac{u^2}{1!2} + \frac{u^4}{2!2^2} - \frac{u^6}{3!2^3} + \dots \right\} du$$

$$= \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \left[u - \frac{u^3}{1!2 \cdot 3} + \frac{u^5}{2!2^2 \cdot 5} - \frac{u^7}{3!2^3 \cdot 7} + \dots \right]_0^t$$

$$\therefore P(t) = \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \left(t - \frac{t^3}{1!2 \cdot 3} + \frac{t^5}{2!2^2 \cdot 5} - \frac{t^7}{3!2^3 \cdot 7} + \dots \right) \dots \textcircled{1}$$